

特集 地域で羽ばたく中小企業診断士6

第1章

地域の活性化に貢献する 中小企業診断士たち



「地域で羽ばたく中小企業診断士6」執筆チーム

1. 足元の経済環境

我が国の経済はコロナ禍を経て、着実に回復の足取りを見せている。2024年版中小企業白書（以下、白書）によれば、2023年第2四半期における実質GDPは3四半期連続のプラス成長となった。理由として、感染症の5類移行によるインバウンド消費の回復や、半導体不足の緩和による輸出増加を挙げている。

一方で、この景気回復は、国内における人手不足という問題を際立たせることにもなった。各企業は、人材確保のため賃金や給与の引き上げを講じている。白書によると、2023年度の最低賃金の全国加重平均は、前年度比4.5%増と過去最大の引き上げ幅となった。

人手不足への対応策として、業務効率化も欠かせない。白書でも「生産性向上に向けた省力化投資」と題してページを割き、中小企業における省力化投資への取組みは拡大の余地が大きいことを伝えている。

2. 各地域企業における課題

賃金の格差や職種の選択肢の多さから、多くの人材が大都市圏での就業を目指す傾向にある。そのため、各地域の中小企業においては、人材確保や育成、業務効率化がまさに喫緊の課題となっている。それぞれの地域や企業に合った改善策を進めることが必要になる。

さらに一歩進めて、各地域の特性や魅力の中から強みを引き出し、事業の成長に生かす試みも重要だ。それがひいては地域の活性化や、地域に人を惹きつけていくことにも貢献すると考えられる。こうした取組みにおいて、中小企業診断士が支援を行う機会は十分にあり、自らの経験蓄積や成長を通じて、さらなる価値提供へとつながるといえるだろう。

3. 本特集の概要

本特集では、全国の各地域で活躍する中小企業診断士4名を取材した。

第2章で取り上げた薄友香里氏は、茨城県で農業を観光資源としてとらえ、その魅力発信による地域活性化を探っている。

第3章の藤井亜子氏は、移住者にも人気の高い長野県で、自身の経験を基に新たなコミュニティスペースを立ち上げ中だ。

第4章の正田位守氏は、国内屈指の工業地帯として発展した瀬戸内沿岸地域において、ものづくり企業の改善・効率化を手がける。

第5章の安谷屋盛広氏は、日本有数の観光地である沖縄県で、当地の風土を生かした企業支援と人材育成に取り組んでいる。

いずれも、各地域におけるさまざまな特徴をつかんで、自身の診断士活動の方向性を定めている。本特集が地域で活動する、あるいはこれから地域での活動を目指す中小企業診断士の参考となれば幸いである。